

表 情 遊 戯

土 川 五 郎

○蓄音機

(大正幼年唱歌第三集)

一 同圓心に向く

一、箱の中から 靜かに爪先つまさきにて左足より二歩前

進す(上體をやゝ前に)

聲が 右手を耳後に彎曲し上體をやゝ左方前に

傾く

出る 左手を耳後に彎曲し上體をやゝ左方前に

傾く

ラツパの奥から 靜かに爪先にて左足より二歩

前進す(上體をやゝ前に)

聲が出る 前に同じ

あれく随分 二歩退く

大きな 一步退きつゝ、兩手を前方より頭上へあ

ぐ

聲よ 左足を引き付け側方より下ろす

誰が 兩手を胸前に腕ぐみをなすと同時に顔を

左方に向けがにて顔を正面に

歌つて 右方へ

居るので 左方へ

せう 兩手を下ろすと共に顔を正面にす

(二番二番は互に向き合ふもよし)

二、今度は樂隊 一同手をつなぎ靜かに四歩前進

いさましい 足踏三回

びいく 右手を握り口にて笛を吹く如くす

どんく 兩手の食指を出し他指を握り左右交

互に太鼓を打つ如くす

いさましい 足踏をなすこと三回

太鼓や笛を 四歩退く

たゝいて 太鼓をたゝく如くす

吹いて 笛を吹く如くす

何處でならしして 拱手して顔を左右に向くるこ

と前の如し

ゐるのでせう 同じ

○木舟泥舟

一同圓心に向く

うさぎの 右足一步後へ出し兩脇を上げ兩手を肩

後に掌を下にしうさぎの耳の如くす（脇を前に

向く）

舟は 體前にて拍手一回して足を引く

木の舟 打ちたる兩手を下げ兩側より前に出し舟

の形を作る

前の 出したる手を握り左足を一步出す

方へと 右足一步前へ進むと同時に脇を後ろに引

き舟を漕ぐ

勇んで 一步前進し握れる兩手を前へ

進む 一步前進し兩脇を引く

狸の 右足を一步後に引き上體を稍前に屈す

舟は 直立す

泥舟で 兩手を前に出し舟を作り左右に一回つゝ

傾く

とろりとろり 後ろへ二歩退く

みるゝ 同じく一步退く

とける 一步退くと同時に蹲踞す

するとうさぎは うさぎにて兩手を肩に兩脇を前

に高く、掌は肩の方に向け背後に垂れる様に（兎

の耳）

つつたちあがり 兩手を前より兩側に下ろす勢に

て直立す

もつた 左足一步踏出し左手を前下方に出す時か

ひを握る如くす

かひをば 上體を稍前に屈すと同時に右手を前下

方に出しかひを握る如くす（左手の前に右手の

ある様に、兩手にてかひを握りたる如くす）

うちふりあげて 上體を起し、兩手を右上方にふ

りあぐ

おもひしつたか 右足一步強く踏み出し振り上げ

たるかひを打ち下ろす

狸どの 両手こぶしを握り稍肩を張る如くして足

を引く

そこで狸は 狸はにて左足一步前へ出し両手を前

下方に出しかひを握る

かひをば 右上方に両手を振り上ぐ

すて、足を引くと共に振り上げたる両手を前へ

投げる如く捨つ

をろく聲に 柔らかく次第にに體を縮めて蹲

踞す

両手を合せ 體前方にて兩掌を合す

いのち計りは 両手を前につき禮をなす

うさぎ うさぎ 上方を見あく

さま 直立す

○机邊より

「……宿屋の二階で見て居ると、燕が花を啣へて、飛んで來ました。それを父さんの前へ落して行きました。」

燕といふ鳥は、春先、遠い空の方から、矢張父さん見たやうに、國をさして歸つて來ます。

そこには何かの大きな力があります。それであゝして同じ道を歸つて來るのでせう。その燕が父さんの前に、花を落して行つたのは、こゝで休んで行けといふことに相違ない。と左様父さんも考へました。燕は父さんに、草臥れた時は休んで行け、と教へて呉れました。

父さんは京都に二日居ました。二日目の晩に京都を立つて、それから夜汽車でお前達の方へ歸つて來ました。

草臥れた時は休んで行け。ほんとに、お前達もあの燕から教はるがよい。

(「幼きもの」……島崎藤村)